

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	総合政策学部	身分	教授
氏名	岩田 重則		
NAME	Iwata Shigenori		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記のとおりご報告いたします。

1. 研究課題

戦争死者追悼施設の思想史的研究

2. 研究期間

2020・2021・2022年度 ※2022年度は新型コロナウイルス感染症特例対応により1年間延長

3. 費目別収支決算表

掲載省略

4. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

この特定課題研究費の研究では、2020年7月発行の単著『靖国神社論』（青土社）を発展させる予定で、明治維新时期とアジア太平洋戦争期に焦点をしばって研究を行なった。

明治維新时期については、靖国神社成立過程および招魂場・招魂社成立過程に注目し、それらが幕末の長州藩討幕派および明治政府によって形成されてくる過程を明らかにした。この成果については、「「勅祭社」靖国神社—招魂とその祭神への変換」[『神道の近代』（アジア遊学 281）、2023年3月20日発行、勉誠出版、pp.46-56]として発表した。

アジア太平洋戦争期については、1945年（昭和20）戦争終結時の政治過程・政治思想の研究を行なった。この成果については、2023年6月刊行予定の単著（仮タイトル）『「玉音」放送の国家論—立憲君主制の権威と権力』（青土社）（四六版 300ページ程度）として発表が決定している。

（英文）

This study focused on the Meiji Restoration period and the Asia-Pacific War period to clarify the ideological history of memorial facilities for the war dead. For the Asia-Pacific War period, it clarified the Japanese government's political thought on ending the war.